甲斐市立竜王北中学校　自己評価書（前期・後期）

平成２９年７月５日（水）作成

校長　　今村　淳一　　記述者　職名（教頭）　小林　雅人

学校教育目標　　「豊かな心を持ち　自ら学び　たくましく生きる生徒の育成」

学校経営方針
（１）豊かな人間性の育成
（２）確かな学力を育む指導と評価
（３）体力向上と健康安全意識の向上
（４）愛情と信頼に基づく生徒指導の充実
（５）安全・安心を基盤とし、家庭や地域に開かれた信頼される学校づくり

分析・作成にあたって

・分析にあたっては、以下の考え方を基本としてまとめていくこととした。
（教職員アンケートについて）
・回答群Ａ（そう思う）とＢ（ややそう思う）をまとめて「肯定的な回答」とし、肯定率が 90%を上回るものは「達成ができている」ものとして評価する。
・「肯定的な回答」が 80%を下回る項目は、本校の課題とする。
・前年度同期と比べて５ﾎﾟｲﾝﾄ以上差がある項目は、本年度の特徴として捉えるものとする。
・本校の独自の集計方法として、Ａ：４点、Ｂ：３点、Ｃ：２点、Ｄ：１点として回答を数値化し、各項目の平均値を算出した。
（評価書の構成について）
・全体を３部構成とし、１全体の評価結果、２ 項目ごとの評価結果、３ まとめ とした。

１ 全体の評価結果

（教職員アンケート）から

・肯定的な回答（Ａそう思う　Ｂややそう思う　の合計）がほぼ全項目（45 項目中 43 項目）で 90%を超えている。

・肯定的な回答が 90%を下回る項目は、
●Ⅲ④「個に配慮した授業」（87.5%）
●Ⅲ⑥「教材教具や備品等を活用した授業」（87.5%）
●Ⅴ①「地域の人材や地域の教育力を生かす指導」（83.3%）
●Ⅴ②「学校に対する要望等を聞く機会の設立」（87.5%）

・ 肯定的な回答が、前年度に比べて５ポイント以上高くなった項目は、
○Ⅲ⑤「評価基準と評価方法を明確にした授業」＋5.3ﾎﾟｲﾝﾄ（H29 100.0%　H28 94.7%）
○Ⅲ⑧「宿題や家庭学習に対する指導」＋5.0ﾎﾟｲﾝﾄ（H29 100.0%　H28 95.0%）
○Ⅲ⑨「習得した知識や技能を活用する授業づくり」＋5.3ﾎﾟｲﾝﾄ（H29 100.0%　H28 94.7%）
○Ⅴ①「地域人材や施設を活用した教育活動」＋8.3ﾎﾟｲﾝﾄ（H29 83.3% H28 75.0% H27 58.3%）

・ 肯定的な回答が、前年度に比べて５ポイント以上低くなった項目は、
●Ⅲ②「児童生徒の学びの意欲を喚起する授業」-6.2ﾎﾟｲﾝﾄ（H29 93.8%　H28 100.0%）

●Ⅲ④「個に配慮した授業」-12.5ﾎﾟｲﾝﾄ（H29 87.5%　H28 100.0%）
●Ⅴ②「学校に対する要望等を聞く機会の設定」 -8.3ﾎﾟｲﾝﾄ(H29 87.5%　H28 95.8%)

・平均値が低かった（３．３以下）項目は、
●Ⅱ②「危機管理（防犯、防災、事件、事故等）マニュアルの理解」（平均値３．３）
●Ⅲ②「児童生徒の学びの意欲を喚起する授業」（平均値３．３）
●Ⅲ④「個に配慮した授業」（平均値３．１）
●Ⅴ①「地域人材や施設を活用した教育活動」（平均値２．９）
●Ⅴ②「学校に対する要望等を聞く機会の設定」（平均値３．０）
●Ⅴ④「ＰＴＡ活動への主体的な参加」（平均値３．３）
●Ⅴ⑦「学習指導や生活指導への保護者の協力」（平均値３．３）

２　項目ごとの評価結果（達成状況・改善策）

Ⅰ　学校教育目標に関して・学校経営について

達成状況

・７項目全てで、肯定的な回答が 100%である。

・「職場の福利厚生・健康管理への配慮」については、肯定的な回答が年々高くなってきているが、平均値は前年度同期と比べて 0.3 ポイント低い。

番号	質問内容		A率	B率	C率	D率	A+B
7	あなたの学校は、職場の福利厚生や健康管理について配慮がなされている。（平均値：今回 3.4　H28 3.7　H27 3.3）	H29 前期	41.7	58.3	0.0	0.0	100.0
		H28 前期	70.8	25.0	4.2	0.0	95.8
		H27 前期	48.0	36.0	16.0	0.0	84.0

改善策

・管理職が、一人一人の勤務状況や抱えている課題・悩み等について把握し、適切な助言を行う。面談等を行い、ストレス等が過度に蓄積しないように配慮する。
・「教員の多忙化軽減意識改革のための自己評価リスト」を学期に１回行い、職員一人一人がセルフケアできるようにする。
・管理職が、教務主任や学年主任との連携を密にし、体調がすぐれない教職員がいた場合は授業変更等を迅速に行う。
・多忙化解消検討委員会を立ち上げ、休暇を取得しやすい体制づくりや職場の雰囲気を醸成する。月に一度、定時退勤日（きずなの日）を設ける。

Ⅱ　学校運営について

達成状況

・８項目全てで、肯定的な回答が 100%である。
・「危機管理関係のマニュアルの理解」については、平均値が３．３であり、前年度同期と同様Ａ率が低い。

番号	質問内容		A率	B率	C率	D率	A+B
2	あなたは、危機管理（防犯、防災、事件、事故等）マニュアルを理解している。（平均値：今回 3.3、H27 前期 3.2）	H29 前期	33.3	66.7	0.0	0.0	100.0
		H28 前期	16.7	83.3	0.0	0.0	100.0

改善策

・危機管理関係のマニュアルについては、職員会議や防災訓練等の機会を利用して、内容の周知を図っていく。各マニュアルのダイジェスト版を作成することについて調査及び研究を行い、職員が手軽にマニュアルを手に取ることができるような方法を検討していく。
・引き取り訓練や緊急地震速報による訓練を実施するなど、マニュアルをより実効性のあるものに変えていく。

Ⅲ　学習指導について

達成状況

・２項目を除いた全ての項目で、肯定的な回答が 90%を超えた水準にある。
・平均値が低い（3.3 以下）項目が２項目ある。

・「児童生徒の学びの意欲を喚起する授業」については、学習指導の他の項目に比べるとＡの割合や平均値も低い。Ｃの回答も１人いた。学びの意欲を高める授業を工夫するものの、毎時間は行うことができないでいるのではないかと考えられる。

番号	質問内容		A率	B率	C率	D率	A+B
2	あなたは、児童生徒の学びの意欲を喚起する授業を行っている。（平均値：今回 3.3　H28 前期 3.4）	H29 前期	37.5	56.3	6.3	0.0	93.8
		H28 前期	42.1	57.9	0.0	0.0	100.0

・「個に配慮した授業」については、学習指導の他の項目に比べると肯定な回答やＡの割合、平均値が低くなっている。Ｃの回答も２人いた。個に応じた授業を実践しようとしてはいるものの、教師自身が納得のいく段階まではできていないと感じていることの表れであると考えられる。生徒一人ひとりに学びのある授業を模索している教師の姿がうかがえる。

番号	質問内容		A率	B率	C率	D率	A+B
4	あなたは、個に配慮した授業を行っている。（平均値：今回 3.1　H28 前期 3.3）	H29 前期	18.8	68.8	12.5	0.0	87.5
		H28 前期	26.3	73.7	0.0	0.0	100.0

・「教材教具等を活用した授業」については、90%を下回った。Ｃの回答も２人いた。しかし、前年度同期と比べてＡ率が 21.4 ポイント増加している。先生方が自分自身の本年度の教科指導の目標（自己観察書記載）を念頭に置いて授業実践、授業改善をしていこうとする意識が高まってきていることの表れであると考えられる。

番号	質問内容		A率	B率	C率	D率	A+B
6	あなたは、教材教具や備品等を活用した授業を行っている。（平均値：今回 3.6　H28 前期 3.4）	H29 前期	68.8	18.8	12.5	0.0	87.5
		H28 前期	47.4	42.1	10.5	0.0	89.5

改善策

・生徒に確かな学力を身に付けさせることは学校教育の大きな目的の一つである。そのことを職員全員が意識し、教科の違いを越えて、授業力を高め合う雰囲気づくりを進めていく。
・職員会議、校内研究会を活用し、発達課題に適した支援方法やユニバーサルデザインによる授業について学習する場や日常的に教職員がお互いの授業を見合う機会を作っていく。
・管理職が先生方の授業を参観する機会を増やし、気づいたことについて助言をしていく。
・学力差の大きい教科に対しては、ＴＴや支援員を有効活用し、きめ細かな指導を行っていく。
・「北中ボード」などを活用して、一斉授業ではなくグループ学習による授業を多くしていく。また、ICT を効果的に取り入れていく。

Ⅳ　生徒指導について

達成状況

・全項目で肯定的な回答が 95%を超えている。２項目を除いては 100%の肯定率である。

・「問題行動、いじめ、不登校等の早期発見・早期対応」については、年々Ａ率が高くなってきており、前年度同期に比べても 19.3ﾎﾟｲﾝﾄ高くなっている。先生方がいじめや不登校等の問題行動への対応を生徒指導、学級指導の重点としてとらえ、日頃から生徒の変化について見取ろうとしている様子がうかがえる。

番号	質問内容		A率	B率	C率	D率	A+B
4	あなたは、問題行動（いじめ、不登校等）の早期発見・早期対応ができている。（平均値：今回 3.8、H28 3.6　H27 3.4）	H29 前期	78.9	21.1	0.0	0.0	100.0
		H28 前期	59.1	40.9	0.0	0.0	100.0
		H27 前期	45.8	45.8	8.3	0.0	91.7

・「学校・保護者・地域及び関係機関との連携」については、平均値３．８、肯定率９５．７％と申し分ないが、前年度同期と比べてＡ率が１８．１ポイント低くなっていることが気にかかる。「Ｖ地域との連携」とも関連させて考えていきたい。

番号	質問内容		A率	B率	C率	D率	A+B
6	あなたの学校は、児童生徒の健全育成のために、学校・保護者・地域・及び関係機関との連携が図られている。（平均値：今回 3.8　H28 3.6）	H29 前期	65.2	30.4	4.3	0.0	95.7
		H28 前期	83.3	12.5	4.2	0.0	95.8

改善策

・教職員から個々の生徒に積極的に声かけを行い、生徒理解を十分に図る。
・いじめを含めた問題行動の未然防止、早期発見・早期対応のために、生徒指導部会、生徒理解部会等で情報共有、指導の方向性の検討を行い、担任だけでなく教職員の役割分担のもと、適切な対応ができるようにしていく。
・不登校については、生徒理解部会を活用し、休み始めた生徒についてケース会議を行い、本格的な不登校になる前の対応にも重点を置いて取り組んでいく。
・再登校への取組については、スクールカウンセラー、スクールソーシャルワーカーとも連携して対応していく。中学校卒業後を念頭に置き、長期的な視点ももって取組を行っていく。
・いじめ等の未然防止の観点からも道徳教育の充実は不可欠である。生徒が思いやりをもち、互いを尊重できるような心と態度を育成していけるよう学校を挙げて取り組んでいく。
・道徳の時間の授業については、校内研究や外部の研修会へ積極的に参加し、授業の質の向上を図っていく。

Ⅴ　地域との連携について

達成状況

・２項目を除いた全ての項目で肯定的な回答が 95%を超えている。また、１項目を除いた項目で前年度同期に比べて平均値が上昇している。しかし、他の領域に比べると平均値が低い（３．３以下）項目が少なくない。

・「地域人材や施設を活用した教育活動」は、肯定率、平均値とも全アンケート項目の中で最も低い数値となっているが、年々高くなってきており、前年度同期と比べても 8.3 ﾎﾟｲﾝﾄ上昇している。

番号	質問内容		A率	B率	C率	D率	A+B
1	あなたは、教育活動の中に地域の人材や施設を活用し、地域の教育力を生かす指導を行っている。（平均値：今回 2.9、H28 前期 2.9）	H29 前期	12.5	70.8	12.5	4.2	83.3
		H28 前期	12.5	62.5	25.0	0.0	75.0
		H27 前期	4.2	54.2	25.0	16.7	58.3

・「学校に対する要望等を聞く機会の設定」については、前年度同期に比べ、8.3 ﾎﾟｲﾝﾄ低くなっている。

番号	質問内容		A率	B率	C率	D率	A+B
2	あなたは、保護者や地域の願いに応えるため、学校に対する要望等を聞くなどの機会を設け、情報収集を行っている。（平均値：今回 3.0、H28 前期 3.4）	H29 前期	20.8	66.7	8.3	4.2	87.5
		H28 前期	45.8	50.0	4.2	0.0	95.8

・「ＰＴＡ活動への協力」については、肯定率９５．８％ではあるが、平均値が３．３となってしまった。平均値はあまり高くはないが、協力的な職員が増えてきている。

番号	質問内容		A率	B率	C率	D率	A+B
4	あなたは、PTA活動に協力的である。（平均値：今回 3.3、H28 前期 3.6）	H29 前期	37.5	58.3	4.2	0.0	95.8
		H28 前期	58.3	41.7	0..0	0.0	100.0

・「保護者の協力」については、肯定率１００％ではあるが、平均値が３．３となってしまった。平均値はあまり高くはないが、協力的な保護者が増えてきている。

番号	質問内容		A率	B率	C率	D率	A+B
7	保護者は、学習指導や生活指導に協力的である。（平均値：今回 3.3、H28 前期 3.5）	H29 前期	25.0	75.0	0.0	0.0	100.0
		H28 前期	54.2	45.8	0.0	0.0	75.0

改善策

・本校における教育活動に地域人材や外部人材が活用できる場面がないかをさらに検討し、活用していくとともに、地域人材を活用した授業、学校行事等の計画を進めていく。すでに実施している活動については、教職員間で共通理解を図り、担当教職員だけでなく他の職員も関わりがもてるようにしていく。
・保護者とは家庭訪問や学級懇談会、三者懇談の時だけでなく、日頃から連絡を密にする。また、ホームページや各種学校便り等を通じて、学校の様子を保護者に伝えていく。
・学校委員会、学校評価委員会を活用し、保護者や地域の学校に対する願いや要望を聞く機会の充実を図る。地域にある学校として、地域の方と協働しながら、子ども達を育成していく意識を教職員一人一人が高めていくよう努める。
・地域や保護者との連携を確かなものとするために、学校開放日等の見直しをする。１１月１７日（金）の道徳公開授業は、保護者だけでなく地域の方々にも公開をする。

Ⅵ　学校の特色に関して	
達成状況	・全項目で肯定的な回答が 100%になっている。また、全ての項目で平均値が前年度同期に比べ上昇している。 ・先生方が、学校行事を始めとした諸活動に目的意識をもって取り組んでいる様子がうかがえる。
改善策	・本校の特色として、教職員全体で取組をさらに推進していけるように、意識を高めていく。また、取組の質を高められるようにＰＤＣＡサイクルを活用していく。 ・「発表活動に主体的に取り組むような指導」については、日常的な授業の発言や発表、集会活動や学園祭等における自己表現や発表の機会をとらえ、適切に指導していく。

３　まとめ

〈成　果〉

・教職員が全項目にわたり、高い意識を持って教育活動に努めている様子が確認できた。

〈課　題〉

・多くの項目で成果が見られる一方で、改善を図る必要のある項目もある。これらについては、教職員全員で知恵を出し合って改善策を考え、実施にあたっては学校全体で合意形成を行い、チームとして取り組んでいく。また、即時に結果が出なくても継続して粘り強く取り組みを進めていく。

・１学期の教育活動における多くの成果と課題を全教職員で共有し、２学期以降の学校生活全体の向上につながるように、ＰＤＣＡサイクルを有効に生かしていきたい。